

「長期輸送需要の予測」

- 運輸政策審議会総合部会長期輸送需要予測小委員会報告 - (要旨)

基本的な考え方

1. 21世紀初頭における経済社会情勢の変化を展望しつつ、2010年時点での具体的な経済社会フレーム等を前提条件にして、輸送需要予測を実施。
2. 輸送需要は、経済成長率等について複数の代替案を設定し、幅を持たせて予測。
経済成長率は、1.8%と2.2%、為替レートは90円/\$と120円/\$を設定。

輸送需要予測の結果

1. 国内旅客輸送量

2010年度における国内旅客輸送量は、人キロベースで12,869～13,100億人キロとなり、1995年度の実績と比較すると、1.09～1.11倍(年平均伸び率0.6～0.7%)と予測。

輸送機関別では、航空が1995年度の実績と比較すると、1.55～1.59倍(年平均伸び率2.9～3.1%)と特に伸びが大きい。

2. 国内貨物輸送量

2010年度における国内貨物輸送量は、トンキロベースで5,584～5,849億トンキロとなり、1995年度の実績と比較すると、1.00倍～1.05倍(年平均伸び率0.0～0.3%)と予測。

輸送機関別では航空と海運のうちRORO船が、それぞれ1995年度の実績と比較すると、1.51～1.59(年平均伸び率2.8～3.1%)、1.41～1.47倍(年平均伸び率2.3～2.6%)と特に伸びが大きい。

3. 国際旅客輸送量

(1) 国際航空旅客輸送量

2010年度における国際航空旅客輸送量は、6,944～7,818万人となり、1995年の実績と比較すると、1.59～1.79倍（年平均伸び率3.2～4.0%）と予測。

(2) 国際海運旅客輸送量

2010年度における国際海運旅客輸送量は、382～410千人となり、1995年度の実績と比較すると、1.58～1.69倍（年平均伸び率2.7～3.1%）と予測。

4. 国際貨物輸送量

(1) 国際航空貨物輸送量

2010年度における国際航空貨物輸送量は、3,463～4,009千トンとなり、1995年の実績と比較すると、1.63～1.89倍（年平均伸び率3.3～4.3%）と予測。

(2) 国際海運貨物輸送量

2010年度における国際海運貨物輸送量は、1,218～1,237百万フレイトトンとなり、1995年の実績と比較すると、1.14～1.15倍（年平均伸び率0.9～1.0%）と予測。

そのうちコンテナ貨物量は、1995年の実績と比較すると、1.79～1.84倍（年平均伸び率4.0～4.1%）と特に伸びが大きい。